

大災害時に必要な情報と各種メディアの有効性 に関するアンケート調査

末澤 弘太¹・中野 晋²・仁志 祐太³

¹徳島大学大学院 先端技術科学教育部

E-mail: ducasue@gmail.com

²徳島大学大学院

³徳島大学工学部

大災害時に適切に「情報」が提供されることは、被災地域での混乱や不安を防ぎ、効率的な復旧復興活動に入る上で重要である。本研究は阪神・淡路大震災の被災者約160人に対し、被災からの経過時間ごとに必要とされた情報、情報の入手方法などについてアンケート調査を行い、災害時に有効な情報伝達手法について検討しました。その結果、特に被災直後は、被災度合いにより、利用したメディア媒体や関心のある情報に大きな差があること、新聞やテレビなどの既存メディアでは、災害危急期に救援情報が不足していることなどが分かった。これに対して、口コミなど地域のつながりを通じた情報伝達が、被災者間の情報共有手段として、一定の役割を担っていることが理解された。

キーワード： 地域防災力,メディア,住民意識,アンケート調査